

乳がん検診（マンモグラフィ検査）

マンモグラフィ検査結果に記載されることの多い所見の説明です。

所見	説明
FAD (Focal asymmetric density) 局所性非対称性陰影	左右で比べた時に部分的に非対称に見られる所見をいいます。
石灰化	カルシウムが沈着している状態です。カルシウムはレントゲンで白く写り石灰化と表現されます。良性の病気でも石灰化を起こすことがあります。良性と悪性ではその特徴が異なります。マンモグラフィ検査ではこの特徴を読み取り乳がんが疑わしいかどうかの判断を行います。
腫瘤	腫瘤とは塊（かたまり）を意味します。しこりと表現されることもあります。乳房にしこりがあっても必ずしも乳がんを意味するわけではありません。しこりには良性腫瘍と悪性腫瘍の両方が含まれまた腫瘍でない場合もあります。しこりの中身がどのようなものなのかは、しこりの一部を採取する検査（生検）で病変の性質を判断します。

子宮頸がん検診（子宮頸部細胞診、HPV 検査）

子宮頸がん検査結果に関する補足説明です。

「HPV」とはどんなウイルスか

HPV（ヒトパピローマウイルス）は、性交渉などによりほとんどの女性が感染するありふれたウイルスです。

このウイルスには100種類以上タイプが存在することがわかっています。

子宮頸がんに関係するHPVはその一部でハイリスク型HPVと呼ばれます。

HPVが子宮頸部の細胞に感染しても多くの人は免疫力などにより体の外に排除し、1～2年以内にウイルスは消失します。

しかし、なかにはHPVの勢力が強く排除できずに感染が持続してしまうことがあります。

感染が持続すると6年～10年という年月を経て子宮頸がんに進行してしまう可能性があります。

「HPV検査」とは、

子宮頸がんの原因となるハイリスク型HPVに感染しているかどうかを調べます。

なお、今回の検診ではタイプまでは調べておりません。

「細胞診」とは

子宮頸部の細胞の変化を調べる検査です。

がん細胞だけではなく、「異形成」といわれる前がん状態の細胞を発見できます。

「HPV陽性」という事は、

多くは免疫力により自然消失するといわれているのであわてる必要はありませんが、現在、「ハイリスク型HPV」に感染しています。

検査結果の見方

同時におこなった子宮頸部細胞診の結果が陰性（NILM）の場合は定期的な検診でHPV感染が持続しているか、細胞に異常（異形成）はないか、確認をする必要があります。

今回の結果に記載されたサイクルで検診を利用したり婦人科を受診して子宮頸部細胞診およびHPV検査を受診し経過を追うことをお勧めします。

細胞診の結果に何らかの異常がある場合はさらに詳しい検査が必要です。必ず婦人科を受診してください。